

検査院指摘「書き換へ」減らす

国交省、全て計上→2カ月分

国土交通省による建設業の建設統計の書き換え問題で、同省が会計検査院の指摘を受けた後も、書き換えた作業を怠らずに本年度で行なった際、「二重計上」する要注綱の量を意図的に減らしていったことがわかった。同省は「（当時）の担当者が大きく感じたと、数字と大きな影響があると感つたのではないか」と語る。統計が不自然に見えるとの指摘についていた可能性がある。

▼(右)=「必要だった」

不自然に見えぬよう調整か

この統計が「建設工事費・商事機械等の推計値」で、建設業者が

が建設実績を毎月記入提出する調査票のデータ。同省は、回収を指揮する都道府県の

した工事実績を統計する。

3月分
4月分
5月分
6月分
7月分
8月分

二重計上に
推計値

書き換えるイメージ
A社が8カ月分の算計時に、未提出だった3~7月分をまとめて提出した場合

A社の受注実績
Aの受注実績

会計検査院の指摘後、合計を2カ月分に減らす
7月分
8月分
3月分
4月分
5月分
6月分
7月分
8月分

担当者は「指示」で、遅くとも2010年代前半から書き換えた。同省は19年11月に検査院から指摘を受けたため、20年1月に都道府県に書き換えた。同省は「作業を怠るより、遅くても指示された」と述べた。

▼(左)=「必要だった」
審査前は、業者が受注実績の提出期限に間に合わないのではないか。全部掲出せず、数カ月分をまとめて提出した場合、この数カ月分の金額を最新一カ月の受注実績のように合算していた。一方、未提出月だけは提出した業者の平均を推計値として計算するルールがあり、「重計上」が生じていた。

国交省は本年度で書き換えた。伊藤義幸、柴田英也(伊藤義幸、柴田英也)

第二者委で検証へ

国土交通省が建設統計を

書き換えていた問題で、岸

田文雄議相は16日、真相解

明のための第三者委員会を

新設するよう指示したと明

かにした。「経過の原因を

釐りと査定して、改めて

対応策を示す」と述べた。

新設はいの日の答弁

手が都道府県の職員から本

省の職員に代わるタイミングで、書き換えた要注綱の量も変更していたといふ。

一昨年、一昨年にわたり国交省職員が書き換えた業をしていたことを認め

また、この期間は「改めた」と説明した。首相も書類提出は、15日の衆院予算委

会で「改めた手筋」とし、年度間比較が必要だった」と説明した。首相も書類提出は、15日の衆院予算委

会で「改めた手筋」と

か触れていないかった。

また、この期間は「改

めた」と説明した。首相も書

類提出は、15日の衆院予算委

会で「改めた手筋」と

か触れていないかった。

また、この期間は「改